凡　事　徹　底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和４年度
第８号（１２月号）

日本のサポーターの振舞いから

校長　椿　智絵

２学期も残り1月となりました。地域・保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動に御協力いただき、ありがとうございます。

今年も昨年同様に新型コロナウイルスの影響を大きく受けた年でしたが、体育祭や蕨二祭等の行事を実施することができました。また、部活動の大会やコンクールも行われ、二中生が大活躍をしてくれました。

3学期は、1年生のスキー体験学習、2年生の校外学習、3年生の入試関係や卒業式があります。このまま状態で学校生活が送れることを願っています。

さて、11月には、全校で三者面談を実施しました。三者面談は、「学校と家庭による情報共有」が大きな目的です。日頃の学校や家庭での様子を共有し、今後の学校生活や卒業後の進路に向けて、生徒自身は何をすべきか、学校と保護者はどう手助けするのかなどを話し合います。

面談の内容は、1･2年生は生活面中心、3年生は進路中心になったことと思います。面談期間は終わりましたが、困っていることや不安に思っていること、悩んでいることがありましたら、遠慮なくご相談ください。子供の成長のため、御家庭と一緒に考えていきたいと思います。

さて、現在、サッカーワールドカップカタール大会が行われており、日本代表チームの活躍が新聞やニュース等で報じられています。試合の結果に一喜一憂しているところですが、日本サポーターについての記事を見つけたので紹介します。

「彼らはまたやってくれた」

11月20日に行われたワールドカップの開幕戦、試合後に日本人観客が帰路につく前にスタンドを清掃したことが注目された。イタリアの『fanpage.it』も、「日本のサポーターはまたも敬意に関して良い手本を示してくれた。彼らを見る者は驚く。だが、彼らにとっては自然なことなのだ」と、日本のファンの振舞いを称賛した。

同メディアの「どうしてそんなことをするんだ？」との問いに、「自分たちがいる場所にとても敬意を払っており、絶対に汚したままにしない」と答えている。

さらに同メディアは、「健全な習慣であり、人為的ではなく自然に生まれるものなのだ。彼らは自分たちの席にあった小さな旗まで持ち帰った。そこに置いたままにするのは許せなかったのだろう」と記事を続けている。

記事は「ロシア･ワールドカップでも、日本と日本人は臨み方や繊細なマナー、その振る舞いで目立った。掃除は単なる儀礼的なこと以上であり、幼少期から教わる行儀のいろはの実践なのだ。彼らは学校で教室や廊下を片づける。スタジアムでも同じことなのだ」「日本のファンは（4年前の）コロンビア戦の試合後も同じ姿勢だった。代表チームの選手やスタッフも同じだ。ベルギー撃破で史上初のベスト8進出というところに迫りながら、大きな失望を味わうことになったにもかかわらず、彼らはロッカールームを整頓し、ピカピカにし、完璧にして去った」

日本の文化を、世界が称えている。（サッカーダイジェスト Web 編集部）

自分たちの使った場所を掃除して整理整頓することが当たり前と思っていたので、世界で称賛されていることが少し不思議な気もしますが、褒められているのは素直にうれしいですね。「来た時よりも美しく　残すものは感謝と思い出だけ」をいつでも実践できるようにしたいものです。

《学校教育目標》
自ら学び、深く考える生徒　（知）
心豊かで、思いやりのある生徒　（徳）
たくましく、健やかな生徒　（体）

蕨市立第二中学校
電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp